

現地を訪問して想うこと

2005 年理工学部卒業 沢坂千晶

東日本大震災復興応援事業東北応援ツアーに参加して一般では自分の目で見ることのできない、福島第一原子力発電所付近の光景や、浪江町役場の中に案内いただき、直に見て話をきけたことは大変貴重で重要な機会でした。ありがとうございました。今回参加して、福島県沿岸部の光と影を見たような気がしています。光とは、沿岸部でも第一原子力発電所から少し離れた施設で、当初は甚大な被害に遭われたものの、立て直しをされ現在では観光客の戻っている姿や、復興に向け、体制を整えお客様へ商品を提供されている姿。逆に影とは、福島第一原子力発電所付近で、当時と変わらない光景や汚染物質として黒い袋が並んでいる風景。

ではここで私たちができることは？と考えたときに考えの元になる2つ問題があると思いました。福島県内でも放射線汚染物質の除去が必要な地域と不要な地域があり、検査して放射線物質も検知されていないにもかかわらず、距離的なものを考慮せず過敏にネガティブな反応を示されるという問題。ここは、外野から光の部分の邪魔をしないことが重要であると思いました。あとは影の部分の計画通りに進んでいない汚染物質除去などの問題。ここに関しては問題が大きすぎて直接的に私たちができることなどなかなか見当たりにません。しかし、風化させて「忘れてしまう」ことのないようにしないといけません。原子力エネルギー、電力の代替として、再生可能エネルギーなどの発展に貢献することもできるかもしれません。ここからできることを前向きに考えていかないといけないと思いました。しかし、福島校友会の方をはじめ総じてみなさん前向きで明るくされていたことが非常に印象的でした。ありがとうございました。